

理学療法特講 (スポーツ障害)

[講義・演習] 第4学年 前期 選択 1単位

《担当者名》 山根裕司 ya_yuji_426@hoku-i-ryo-u.ac.jp 佐々木祐二

【概要】

様々なスポーツ外傷、障害の発生機序と病態について概説するとともに、代表的なスポーツ傷害に対する理学療法の実際について学習する。また、傷害予防・再発予防の見地からスポーツ現場で行われているメディカルチェック、コンディショニング、テーピング等の手法の実際を理解する。

【学修目標】

スポーツ傷害に対する理学療法についての基礎知識を理解し技術を習得するために、スポーツ外傷、障害の発生機序と病態、その理学療法および傷害予防について学び、代表的なスポーツ傷害に対する理学療法について説明と実践ができる。

1. スポーツ傷害について説明できる。
2. スポーツ傷害の発生機序について理解する。
3. スポーツ傷害における評価と理学療法について説明できる。
4. スポーツ傷害における評価と理学療法について実践できる。
5. テーピングの技術を習得する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	スポーツ理学療法総論	オリエンテーション、スポーツ理学療法の基礎を学ぶ	佐々木祐二 山根裕司
2	スポーツ傷害概論 (腰部・股関節)	腰部と股関節のスポーツ傷害とそれに対する理学療法の基礎を学ぶ	佐々木祐二 山根裕司
3	スポーツ傷害概論 (上肢)	上肢のスポーツ傷害とそれに対する理学療法の基礎を学ぶ	佐々木祐二 山根裕司
4	腰部・股関節のスポーツ傷害に対する理学療法	腰部・股関節のスポーツ傷害に対する評価と理学療法についての実技を行う	佐々木祐二 山根裕司
5	上肢のスポーツ傷害に対する理学療法	上肢のスポーツ傷害に対する評価と理学療法についての実技を行う	佐々木祐二 山根裕司
6	スポーツ傷害概論 (膝関節)	膝関節のスポーツ傷害とそれに対する理学療法の基礎を学ぶ	佐々木祐二 山根裕司
7	スポーツ傷害概論 (足関節・足部)	足関節・足部のスポーツ傷害とそれに対する理学療法の基礎を学ぶ	佐々木祐二 山根裕司
8	膝関節のスポーツ傷害に対する理学療法	膝関節のスポーツ傷害に対する評価と理学療法についての実技を行う	佐々木祐二 山根裕司
9	足関節・足部のスポーツ傷害に対する理学療法	足関節・足部のスポーツ傷害に対する評価と理学療法についての実技を行う	佐々木祐二 山根裕司
10	スポーツ傷害に対する応急処置とコンディショニング	スポーツ傷害に対する応急処置とスポーツ選手に対するコンディショニングの基礎を学ぶ	佐々木祐二 山根裕司
11	スポーツ外傷に対する応急処置	スポーツ現場における応急処置を経験する	佐々木祐二 山根裕司
12	スポーツ傷害予防とメディカルチェック	スポーツ傷害の予防とメディカルチェックを経験する	佐々木祐二 山根裕司
13	スポーツ傷害予防とメディカルチェック	スポーツ傷害の予防とメディカルチェックを経験する	佐々木祐二 山根裕司
14	テーピング	テーピングの概要を学び、足関節へのテーピングの実技を行う	佐々木祐二 山根裕司
15	テーピング	足関節へのテーピングの実技を行う	佐々木祐二 山根裕司

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部(研究科)、学校の授業実施方針による

【評価方法】

定期試験 100%

【教科書】

山下敏彦 他 監修 「スポーツ傷害のリハビリテーション 第2版 Science and Practice」 金原出版 2017年

【参考書】

片寄正樹 他 編集 「機能診断とその技法 スポーツ理学療法プラクティス」 文光堂 2017年

片寄正樹 他 編集 「急性期治療とその技法 スポーツ理学療法プラクティス」 文光堂 2017年

内山英司 他 監修 「スポーツ外傷・障害に対する術後リハビリテーション 改訂版」 運動と医学の出版社 2013年

小関博久 編集 「外来整形外科のためのスポーツ外傷・障害の理学療法」 医歯薬出版株式会社 2014年

臨床スポーツ医学編集委員会 「臨時増刊号 スポーツ障害理学療法ガイド」 文光堂 2014年

青木治人 他 監修 「スポーツリハビリテーションの臨床」 メディカル・サイエンス・インターナショナル 2019年

山下敏彦 編著 「総合スポーツ医学 実践ハンドブック」 中外医学社 2022年

赤坂清和 編集 「PT・OTビジュアルテキスト スポーツ理学療法学」 羊土社 2023年

【学修の準備】

講義に該当する部位の機能解剖を事前に予習して講義に臨むこと（80分）。

教科書・配布資料をもとに復習を行うこと（80分）。

【その他】

服装はTシャツやハーフパンツ等の四肢を露出しやすいものを準備する。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP3）理学療法士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

【実務経験】

山根裕司（理学療法士、認定理学療法士（スポーツ）、（公財）日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー）

佐々木祐二（理学療法士）

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関やスポーツ現場での実務経験を活かし、スポーツ傷害についての概要や、スポーツ選手に対するアスレティックリハビリテーションの内容、コンディショニングの実践方法について講義する。